

熊本県立八代工業高等学校（定時制）令和4年度（2022年度）学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>(1) 基礎学力と基本的生活習慣の充実・定着 (2) 地域に信頼され、愛され、必要とされる学校づくり (3) 自己理解とキャリア教育をとおした自己実現 (4) 常により良いものへと向かう姿勢の育成</p>
--

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>本校の校訓「誠実」を基柱とし、熊本県教育庁の令和4年度（2022年度）「教育指導の重点」並びに「取組の方向」に則り、家庭、地域、学校が連携し、生徒の「夢実現」と「生きる力の育成」に向けた教育活動を推進する。</p> <p>(1) 基本的生活習慣の確立と豊かな人間形成の醸成 (2) 基礎・基本を重視した学力の定着と向上 (3) キャリア教育の充実と自己実現 (4) 安全教育・健康教育、危機管理の充実 (5) 校務整理と業務改善</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	「働きながら学べる学校」の推進	・ 多様な生徒の実態に即した指導	・ きめ細かな生徒の実態把握と個別指導の充実	・ 毎月の生徒情報交換会 ・ 生徒面談の重視と特別支援計画の共有、状況に応じた各教育機関との連携による対応	A	・ 毎月の生徒情報交換会により多様な生徒の実態を全職員で共有できた。 ・ 全生徒にSC面談を実施し、SSWと連携しながら個々の課題に対応したことで、中途退学者が出なかった。
	教職員の資質向上	・ 校内研修の充実	・ 分掌部の組織的・機動的取組の再構築	・ 分掌部会の開催と計画的な研修の実施	A	・ 不祥事防止研修や保健部主催の健康管理に関する研修、生徒指導部主催のいじめ防止研修、GIGAスクール推進部のICT活用研修など計画的に実施できた。
	業務改善	・ 校務の効率化	・ 分掌部間の協力・協働体制の構築	・ 分掌部間で情報共有した学校行事の実施 ・ 講演の日程調整によるLHRの時間確保	B	・ GIGAスクール推進部主導で校務のICT化、効率化が進んだ。職員間の情報共有もしやすくなった。 ・ 担任裁量のLHRの時間が少なかった。
学力向上	学校生活への意欲向上	・ 出席率の向上	・ 生徒の年間出席率平均85%以上	・ 毎月の情報交換会で、生徒の学校生活や家庭環境の状況を全職員で共有 ・ 生徒用行事予定クラスルームを活用し、生徒へ授業計画や行事予定表を掲示	A	・ 情報交換会での把握を実施し、担任を中心に欠席の多い生徒の対応を行った。 ・ 学校連絡Classroomを活用し、授業予定や定期考査時間割を生徒だけでなく保護者にも掲示できた。 ・ 全体の出席率は、86.4%であった。

	学習への意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業の実践 ・授業時数の確保 ・基礎学力の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価や全職員による研究授業を実施 ・行事予定をもとに、授業の偏りなく調整し、授業の予定時数を全職員へ周知 ・新入生考査やベーシックタイム確認テストの結果を分析し、全職員の共通理解 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価は、1・2学期に1回ずつデジタルデータで行い、業務短縮できた。研究授業は職員用 Classroom を活用し、配付資料を共有できるようにした。研究授業は、タブレット端末の活用を基本に据え難しかったが現在までにほとんどの職員が実施した。 ・授業数の偏りがないように調整し、授業予定数は各学期に全職員へ周知した。 ・学校評価アンケートでは学力向上の割合が昨年以上に上昇した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックタイムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、英語の課題を、学期をまたがった2カ月程度取り組み、課題をもとにしたテストを実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組む時間を2カ月計30回以上設けた。24人中2人が全問に取り組み、15人が20回以上取り組んだ。授業以外で学習しているのは4人であった。 ・進路指導部による学力診断テストと連携し、1学期からベーシックタイムを行い基礎学力の定着に取り組んだ。
キャリア教育・進路指導	進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに合わせた進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の把握 ・進路に関する資料等の提供 ・進路面談や課外、模試の実施 ・ハローワークや地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を毎月行う ・企業見学の実施 ・進路講演会の実施 ・進路報告会の実施 ・生徒の進路希望に合わせた面談、課外、模試等を適宜実施する ・必要に応じて、ハローワークや地域事業所、外部機関等に相談し、協力して進路指導を行う 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ぶりに企業見学が実施でき、地元企業の実態を知ることができた。 ・進路希望に具体性をもたせる術を工夫する必要があった。 ・模試を2回実施し、生徒の状況把握につながった。 ・ハローワークをはじめ、外部機関とも連携をとり、課題を抱える生徒の対応に活かすことができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・働くことに前向きな勤労観を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業状況調査の実施 ・アルバイト等の情報提供 ・インターンシップの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業状況調査を毎月実施し、結果を全職員に周知する ・ハローワークの求人情報を随時生徒に案内する ・2年次のアルバイト未経験者を中心にインターンシップを実施し、年次末に報告会を行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークの求人の中から2名の生徒をアルバイトにつなげることができた。 ・インターンシップに1年次からも2名が参加し、充実した内容で実施できた。
生徒指導	自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻の減少（昨年度比1割減） ・4割の生徒がスマホのルールを意識した行動を送ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導 ・情報安全教室 ・担任、教務部、生徒会、家庭との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻件数について、501件と多く、昨年度より79件増加した。 ・スマホのルールについては、スマホ使用宣言を活用

						<p>したことで全生徒が家庭内でのルールを決めることができた。また、ルールを守っていると回答した生徒が約4割、やや守れているを含めると約7割となり意識した生活が送れている。</p>
	豊かな人間形成	・コミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら積極的に挨拶することができる。 ・お互いに共感し理解し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導 ・年2回のSSTの実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・SSTや人権教育、SCによる講話や全生徒面談などにより落ち着いた学校生活を送れている。
人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	・教職員の実践力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に対する研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践力のある人権レポートの自主研修と作成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による人権レポートの作成については、人権意識の向上につながっていると思われるが、研修への積極的参加については5割を切っており、改善の必要がある。
	人権意識向上	・人権教育の内容精選	<ul style="list-style-type: none"> ・3・4年間を見通した人権教育計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4年間の継続した人権問題への積極的な取組の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のいじめや差別を許さない意識については9割を超えた。1・2年次で様々な人権問題への取組を行い、3・4年次では「言わない・書かない・提出しない」取組等を行った成果が表れている。
	命を大切にすることを育む指導	・自他の命を大切にすることを育む	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりの推進 ・自己肯定感や自尊感情の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感や自尊感情を高めるためのLHRを活用した授業の実践 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・友人を大切にしている生徒が7割近くに達しており、学期ごとの人権問題をテーマにしたホームルーム活動や自己肯定感や仲間意識を高めるためのゲームや講話等の成果が表れている。
いじめの防止等	いじめの防止等	・いじめについての認識と理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の人格を尊重する態度の育成 ・心の通う人間関係を構築する態度を養う ・いじめゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して生活できる集団生活のルールの確立 ・SST、情報安全教育、人権教育の実施 ・あらゆる機会をとらえいじめについて考える場面の設定 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果、95%の生徒がいじめや差別を許さないことや友人を大切にすることを意識している。 ・今年度いじめの認知件数は0件であった。 ・SSTや人権教育、授業などあらゆる教育活動の中で、自他を尊重する態度について指導を行うことができた。
	いじめの実態把握	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知 ・早期発見、解決に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見と対応 ・いじめの解決 ・いじめに対する学校と家庭の連携・協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期のアンケートを実施と検証 ・全職員での情報共有 ・面談週間の実施 ・いじめ防止等対策委員会の開催 ・スクールサインのインストール 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎にアンケートを行った結果をまとめ、全職員で共通理解を図った。 ・いじめの認知や未然防止等に関する職員研修を2回実施した。

地域連携（コミュニティスクール等）	学校・保護者・地域・各種行政機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合型コミュニティ・スクールとしての地域との連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営、教育活動課程の承認 ・ スクールミッションの承認 ・ 地域の課題への取組による地域活性化 ・ 危機管理マニュアルの更新と周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会の開催（年3回）による連携体制確立 ・ 地域の就労先との連携 ・ 安全安心メールを使った連絡体制の強化 ・ 適時の防災教育の実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年も学校運営協議会から貴重な提言をいただき危機管理に役立てている。 ・ 危機管理マニュアルの内容を、全日制とのマニュアルと連携し、数年ぶりに更新できた。 ・ 防災避難訓練は短縮授業にせず、平常校時に改善して実施できた。生徒・職員の避難も良くできた。
	開かれた学校作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制高校の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業・オープンキャンパスにより魅力をアピール ・ 学校ホームページによる定時制の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業の校外への周知 ・ オープンキャンパスの内容充実 ・ 定時制独自のホームページにより見やすく鮮度のある情報の発信 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業において、学校運営協議会委員、中学校関係、保護者の方々から好評であった。 ・ オープンキャンパスは参加者が増加し盛況であった。 ・ ホームページの移行は労力を要したが、本校の教育活動の周知と魅力発信の効果があつた。
健康教育	基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三密の回避、偏食のない食生活を送り、6時間以上の睡眠を促し免疫力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に換気の徹底、健康観察や内科検診時での把握 ・ 食育を通じて、自己管理能力の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員で換気等の徹底を行っており、集団感染はできていない。 ・ 食育や調理会を3年ぶりに実施できた。
学校行事等の充実	学校行事の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の主体的な活動を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事の満足度を5段階中4以上 ・ 生徒の自己肯定感や自律心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育大会や文化祭、校外体験学習等の行事で、コミュニケーション能力を向上させ、達成感や充実感を味わわせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの結果、学校行事を楽しみにしている生徒は71%であり、昨年度より1割増加した。 ・ 自己肯定感については、自分に自信が持てない生徒が半数以上いる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A と連携した行事の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 共催行事の充実 ・ P T A 役員会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校外体験学習の魅力ある場所の選定と内容の充実 ・ P T A 役員会の出席率の向上と、綿密な打ち合わせの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 荒尾方面の世界遺産の「万田坑」の学習、「グリーンランド」による親睦等、充実した内容となった。 ・ コロナ禍で必要最小限であったが P T A 役員様のおかげで充実した P T A 活動ができた。次期 P T A 役員選考は、役員の方々の御理解と御協力でスムーズに見通しが立った。
	生徒会行事と部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動の充実（定通文化大会を含む） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動の活性化による、学校行事の充実 ・ 自ら進んで参加する意欲的な生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーシップの育成と積極的に取り組める体制の構築 ・ 生徒一人ひとりが活躍できる学校行事の企画 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事は生徒会スタッフが主体的に運営し、盛り上げてくれた。 ・ 3年ぶりの定通文化大会では、生徒会スタッフが活躍した。生活体験作文発表で県代表になることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動しやすい環境の整備（用具等） ・ 通年の活動ができる指導・助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動しやすい環境の整備（用具等） ・ 通年の活動ができる指導・助言 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年の活動を行うことができたが、参加者が減少傾向である。運動習慣の確立に向け、呼びかけていきたい。

